

詳しい要望・提案は区民会議のホームページで情報を提供しています。

## 青葉区民会議てなに？

青葉区民が自主的に参加し、青葉区をより住みよいまちにするために活動し提言しています。

横浜市では新たな行政改革が始まり、政策を検討する段階から市民が市政に参画する機会が増えます。また、区の権限が強化され、区民の提案で青葉区がよくなる時代が来ます。

区民会議はこうした新しい横浜市政に対応するため、区民の声を的確に「提言」にまとめていく重要な役割が求められています。

- ◆公募、自治会・団体推薦の委員で構成します。
- ◆意見を集め、話し合い、それぞれの分野で調査検討します。
- ◆行政に提言をする区政参画の場です。
- ◆広聴事業の一つとして位置付けられ、区長や担当セクションと話し合い、協働してまちづくりを進めます。
- ◆公開講座やシンポジウムを開催し区民と共に考えます。

## 提言した成果は？

区民会議の提言がきっかけになって最近ではこんな成果があります。



「あおば ばそこん横丁」が別館に開設されました。

ゴミ散乱を防止するカラスネット購入費の半額助成制度が始まりました。



あざみの駅前駐輪場の増設が実現しました。

その他にも区政にいろいろな形で提言が反映されています。

## 青葉区長に提案

### 遠い区役所

### 地区センターに身近かな行政サービス窓口を

青葉区民会議は八月十五日、橋本青葉区長に「平成十六年度横浜市予算に対する要望・提案」を提出し、青葉区の課題について話し合いました。

冒頭、佐々木区民会議代表・橋本区長とともに「青葉区民のついでに区民と職員が同じテーブルで話し合ったことについて、高く評価し今後機会を見て実施したい」と意見が一致しました。

◆新しい区政運営は区民参加で！橋本区長が区民に約束した「区政運営方針」がどのように実現されたかを検証するため事業評価委員会が設置されますが、この委員会は区民参加を進めるよう要望しました。

また、「個性ある区づくり推進費」の予算に区民の意見が反映

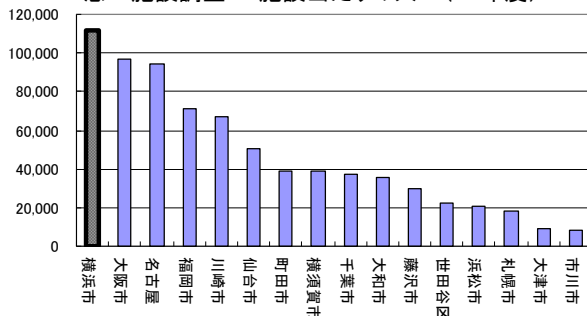
できる仕組みを作るよう提案しました。

◆横浜全市七十五ヶ所の地区センターに行政サービス窓口の開設を提案。イントラネットで結び、ITを活用すれば少人数の職員を配置することで実現可能ではないかと提言しました。

横浜市の行政窓口は十一万人に一ヶ所しかなく人口に比較して全国市区町村の中でワーストワン。下のグラフにあるように、世田谷区や札幌市では二万人に一ヶ所、歩いて行ける範囲に出張所があります。全地区センターに開設すれば、千葉市並のサービスが実現します。

横浜市は新時代行政プランで市民の利便性を考え「もっと身近で行政サービスをするべ

窓口施設調査 1施設当たりの人口(13年度)



「きだ」と行政運営の重要課題を示しています。

◆来年度は青葉区政施行十周年に当たります。記念事業の推進のためいろいろな層の区民が参加する「ふるさと委員会」の設置を提案しました。まちの振興につながる新しい企画を若い世代も参加し提案出来る仕組みが必要です。

### 目次

- ◆座談会「区役所はかわる＝市民もかわる」区民127人と市・区職員93人が同じテーブルで話し合い。その意義を考える。(4面)
- ◆市民利用施設の改善を
- ◆“虐待”を許さない、見逃さない勇気を！高齢者虐待防止に立ち上がろう
- ◆青葉区の水質・大気・緑比率に関心を(2面)
- ◆インタビュー 学校と地域を結び
- ◆置き去り自転車のつぶやき(3面)



## 部会活動

部会からの提案 25 項目の詳細は区民会議のホームページに掲載されています。

### より良い市民利用施設について一緒に考え提案しませんか・



**皆**さん、地区センターや、コミュニティハウス、市民活動支援センターなど充分利用されていますか？  
利用して何かお気づきの点はありませんか？  
その運営に満足されていますか？  
もっと良くなっていいと思いませんか？

そうです、そこで私たちと一緒に市民利用施設について考え、提案しませんか！  
私たち文化・コミュニティ部会は、市民の立場に立って市民利用施設の改善、有効利用を考え、提言しています。  
(文化・コミュニティ部会 加藤)

- 1.利用者どうし話し合いを進め、コミュニティ形成の拠点としてのネットワーク作りを推進するため、利用者会議の開催回数の増加を提言する。
- 2.市民利用施設の館長を公募制にして、地域の施設利用者が適任者を選任できるようにする。
- 3.市民活動支援センター市ヶ尾プラザに専従職員を配置する。
- 4.市民講師を養成し、市民利用施設や学校へ派遣する。
- 5.「北部方面フォーラム・ギャラリー」の運営に地域の声を十分に反映させる。
- 6.地域に世代を越えた交流に場「地域家族」を実現するために、子育て支援センターの開設を要望する。

### “虐待”は許さない、見逃さない勇気を 高齢者の虐待防止に立ち上がろう！



**最**近、介護を必要としている病弱な高齢者が放置されたり、暴力を振るわれたりする虐待行為が後をたたないとマスコミ等で報道されています。  
ベッドの柵や車椅子に縛り付けたり、殴る、蹴るといった身体的虐待から、食事を与えない、オムツを替えない、などの介護放棄、暴言で相手の心を傷つける心理的虐待などさまざま。こうした深刻な虐待行為が家庭や施設内で多発しています。被害者は女性が多く、特に痴呆や寝たきりなど介護に手がかかる高齢者ほど虐待を受けるといわれています。  
高齢者への虐待を防ぐには児童虐待や配偶者間の暴力行為を禁じる法律制定にならって、法整備を急ぐ必要があります。  
同時に、横須賀市や大和市で行われている

「支援システム」の例に学ぶべきです。  
横須賀市は健康福祉センターに相談窓口を設け、保健師が家庭を回ります。医療機関や福祉施設などと連携し、高齢者を施設に保護する時に、介護者から悩みや要望を聞くことで、介護者のストレスが少しでも軽減されて、虐待の事実が止むということです。  
また介護施設や医療機関に働く職員をはじめ、介護家庭の介護者に対し、生命の大切さ人の尊さを改めて訴えています。このことで、高齢者にやさしい、ゆとりある介護につながります。  
福祉部会は青葉区にも「**高齢者の虐待防止ネットワーク支援システム**」を早く確立するよう要望しました。(福祉部会 蜂須)

### 皆さん、青葉区の川の水質・大気などの 環境情報や緑被率を知っていますか？



**緑被率とは**  
緑の現状を赤外線航空写真によって上空からとらえた緑の量で、青葉区は35%維持をめざしています。

**青**葉区に住む大勢の区民の皆さんは「みどり」豊かで清浄な「空気」ときれいな「水」に囲まれて暮らしたいと願っています。自然環境部会ではこれらの自然環境を保全するためにいろんな提案をしています。  
開発は依然として進められています。青葉区の残された自然環境の現状を知り行政と区民の協働で保全活動に取り組むことが大切と私たちは考えています。  
今回は青葉区の現状を日常的に区民に知らせ、環境保全の関心を高めて頂きたいと考え、青葉区内に**環境観測地点**の設置を提案しました。

青葉区独自の環境チェック体制を整備し、常時定期的に**監視・測定しそのデータを公開**、区民が共有できるよう、あわせて提案・要望しました。  
**水質汚染の観測地点**として、青葉区を流れる谷本川(鶴見川)、恩田川、黒須田川。排ガス等による**大気汚染を常時観測・監視**する場所として東名青葉インター周辺などを提案したいと考えます。  
また、環境保全活動全般に関する情報の公開を提案するとともに、市民が関心を持って活動できる拠点「**環境窓口**」(環境活動推進センター)の設置も要望しています。

(自然環境部会 加茂)



## 区役所新設の学校支援・連携担当課長に聞く ～学校と地域をつなぎ、まちの教育力を生かす情報づくり～

**ゆ** くゆくは教育委員会の機能にある程度、区に分権し、区の特性に応じたより細やかな教育サービスができるような、組織づくりのためのポストと理解していますが、じゃあ具体的に何をするのかというと、まあ、やりながら考えてほしい、とも言われていまして(笑)。

例えば、学校長が一人で抱えて悩んでいる問題を私と一緒に話し合うことで、微力ではあっても、力になれるのではないかと。そして学校の問題を中継してうまく行政に割り振る。例えば、まちの教育力の活用については、どこにどんな人材がいて学校でどんな活動をし、どん

な成果をあげたか。情報を集めて、それを他の学校も共有できるようにしたい。確かに何かをしようとすれば、すべて組織機構改革という問題がからんできます。どんな形で権限委譲しながら区の権限強化につなげていくか、これからの大きな課題でしょう。

最初はまず現状把握だと思い、区内の小中学校40校のうち、一学期中にもう3分の2ぐらい回りました。僕は自分が校長だったことが、すごいメリットだと思っているので、早く校長先生たちと顔なじみになって、フランクに話ができるような関係を作りたい、これが本音ですね。



今年4月、区の機能強化の観点から、各区役所に「学校支援・連携担当課長」が新設されました。青葉区では、新石川小で4年間校長をつとめた山田正海(まさみ)さんが就任しました。

従来の縦割り行政の弊害をのりこえ、広く地域の人々と「フランクに」話し合う、学校・地域・行政をつなぐパイプ役を期待してお話を聞きました。(教育部会 横島・辺見)



## 置き去り自転車のつぶやき

**駅** やお店へちょっと出かけるのに、自転車は便利ですね。環境にも優しい乗り物として、自転車は近年注目されています。

けれども、出かけた先で、乗ってきた自転車はどこに停めていますか？ ひょっとして、歩道に置き去りにしていませんか？

歩道に置かれた自転車は、いわば、歩道に捨てられた粗大ゴミです。持ち主が戻るまで、自転車は健気に同じ姿勢で歩道にあります。その間自転車は、歩道を通る人の邪魔をし続けています。

区民会議では、自転車置き場が足りないと考え、青葉台・あざみ野両駅の駐輪場の増設、田奈駅駐輪場の新設を要望し、昨年度は

あざみ野駅で駐輪場増設が実現しました。でも、駐輪場があってもそこを使わない人がいます。

平日の朝は、一部の駅で自転車監視員が常駐し、歩道に自転車などが放置されないよう見守っていますが、いなくなれば自転車は止められてしまいます。いずれの方法でも、歩道から置き去り自転車をなくせません。

抜本的な解決には、自転車を歩道に放置すると損する、あるいは自転車を決められた場所に置くと得をする、そういう仕組みが必要ではないでしょうか。そんな仕組みづくりを模索しています。いいアイデアは、ありませんか？

(防災・交通部会 大和田・黒須)



田奈駅周辺の放置自転車

## 席を譲る？お話

先日のとある新聞で、若手女性作家の方が「ご心配」とお孫さんの関係につき興味ある経緯をした記事を掲載しておりました。話は、その女性が比較的混んだ電車で座席を譲るところから始まります。

ある駅で年配のご婦人とお孫さんとおぼしき小学校低学年の子供が乗ってきました。彼女は席を譲りました。ご婦人は丁寧にお礼を述べ、そしてお孫さんを席に着かせたそうです。

彼女は複雑な気分になりました。なぜなら、彼女は年配の方のために席を立つたのです。

私はこの話を50代後半の友人に聞いてみました。彼いわく「やはりお婆さんが堂々と座るべきだね」。しかしひと呼吸おいて「ただ、俺も孫ができたら可愛がりすぎるかも」。皆さんはいかがでしょう？

(市ヶ尾 福島)

